

第7回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成22年12月6日(月) 午前9時30分～午前11時35分
- 2 場 所 山科区役所 2階 大会議室
- 3 出席者 織田座長, 幸田副座長, 市川委員, 梅本委員, 太田委員, 奥田委員, 川嶋委員, 河村委員, 小山委員(代理出席), 佐治委員, 朱委員, 竹之内委員, 谷川委員, 出竿委員(代理出席), 西委員, 羽立委員, 日比野委員, 松本委員, 森委員, 山口幸秀委員
- 4 内 容 ○報告事項:「はばたけ未来へ!京(みやこ)プラン(京都市基本計画)案の答申」について
○議事①:「第2期山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズについて
○議事②:「第2期山科区基本計画」案について
○議事③:「第2期山科区基本計画」の進ちよく管理について
- 5 説明(報告事項, 議事①, ②, ③)
「はばたけ未来へ!京(みやこ)プラン(京都市基本計画)案の答申」, 「第2期山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズ, 「第2期山科区基本計画」案, 「第2期山科区基本計画」の進ちよく管理について, 事務局から説明した。

6 承認事項

(1)「第2期山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズについて

ア 第6回の策定委員会において投票を行った結果, 30作品のうち, 得票数が僅差であった上位3作品について, 本日, 出席委員による決選投票を行い, 最も優秀な1作品を選定することとした。

(参考) 上位3作品の得票数

キャッチフレーズ応募作品	得票数
心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科	11
ひと・まち・緑がいきいき 山科区	10
四季映えて 笑顔ふれあう 山科区	10

イ 決選投票の結果

キャッチフレーズ応募作品	得票数
心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科	8
ひと・まち・緑がいきいき 山科区	8
四季映えて 笑顔ふれあう 山科区	4

決選投票の結果, 上位2作品の得票数が同数であったため, 上位2作品について, 本日, 改めて出席委員による決選投票を行うこととした。

なお, 出席委員が偶数の20名であったため, 座長を除く19名による投票を行うこととなった。

ウ 2回目の決選投票の結果

キャッチフレーズ応募作品	得票数
心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科	10
ひと・まち・緑がいきいき 山科区	9

2回目の決選投票の結果、「心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科」が優秀作として選定された。

(2)「第2期山科区基本計画」案について

ア 第6回の策定委員会及びパブリック・コメントについて

- 事務局からの説明のとおり、出前パブコメによる団体意見が追加となったため、パブリック・コメントの意見総数を444件として修正することとした。
- 第6回の策定委員会及びパブリック・コメントでの意見に係る修正内容について確認した。

イ 計画冊子のデザイン及び写真の追加について

【策定委員からの意見】

- 計画冊子のデザイン・レイアウト等については、様々な区民にとって読みやすいものとなるよう配慮されたい。

【承認事項】

- 計画の答申については、原案どおり、文章主体のものとし、答申後、区民向けの計画冊子を作成する段階で、冊子全体のデザインと併せて、写真を多く活用し、見やすいものとするよう区長へ要望していくことを確認した。

ウ 交通・都市基盤の強化について

【策定委員等からの意見】

- 山科駅前の再開発は、鉄道会社からの協力が不十分で、完成に至っていないと考えている。山科駅前の再開発について再検討していくという趣旨を計画に含めてほしい。また、小金塚地区や小山地区などでは、緊急・防災、バス交通において、地域生活の安心安全をつくり守っていくために、大津市との連携が欠かせない。近隣自治体との連携について計画に記載できないか。
- 「京都市基本計画マスタープラン」との整合性や今後10年間の実現性を考慮したうえで、計画案にある「既存の施設等を活用した」との限定した記載を削除し、「都市拠点の充実」の範囲に山科駅前の再開発の再検討等の趣旨を含めて考えることができる記述としてはどうか。

【承認事項】

- 「既存の施設等を活用した」との記載を削除することとした。

エ その他

【策定委員からの意見】

- 達成度の指標等に記載されている基準年月の表記の仕方が異なっているので、統一するなど改めて全体の確認・調整を図られたい。

【承認事項】

- 策定委員からの意見を踏まえ、修正内容については座長、副座長と事務局に一任することとした。

オ 「第2期山科区基本計画」案の答申について

- 今回の修正点を反映させたうえで、原案を当委員会の答申とすることとして、全委員が了承した。

(3) 「第2期山科区基本計画」の進ちよく管理について

【策定委員からの意見】

- 推進会議の構成メンバーとして、団体代表者等が想定されているが、当委員会の公募委員など、一般区民の参画については想定しているのか。
- 各地域の自治連合会や任意団体等を通じて、区民は計画の推進に参画できると考えられる。
- 計画を推進していくうえで、「個人が自らを社会化していく」というベクトルと、「行政や各団体といった社会が個人を生かしていく」というベクトルの二つがあり、両方が大事である。新しく設置する推進会議において、こうした要素を盛り込んでいく可能性は探っていくべきだろう。
- 計画を推進するにあたり、アンケート調査やパブリック・コメントによる区民参加だけでなく、各団体を通じて推進会議に参画する区民を公募することは可能である。
- 計画の進ちよく管理とは、計画の具現化のプロセスであり、各団体の活動を作り出していくことが重要となる。計画推進への参画とともに、指標として設定した目標達成のため、テーマを決めたタウンミーティングや交流会の実施などの取組ができるのではないか。また、一般区民の参画については、1年一度、もしくは2年に一度、区民フォーラムを実施することなども考えられる。
- 計画の進ちよく状況の公開についても、インターネット等のコミュニケーションツールを活用するなど、工夫していく必要がある。
- 計画策定はあくまでスタートであり、区民や各団体が、自らが実践する決意をもって計画の推進に臨んでいくことが大切である。

【承認事項】

- 現行の「山科区基本計画」を推進する「“やましな21”推進会議」を基本に山科区基本計画策定委員会の委員や未参加の区内各種団体からの代表等を加え、「第2期山科区基本計画」の推進と進ちよくの管理を担う「山科区基本計画推進会議（仮称）」を新たに立ち上げることを確認した。
- 計画の進ちよく管理にあたり、策定委員からの意見について、新たに設置する「山科区基本計画推進会議（仮称）」に引き継ぐことを確認した。